

りわけ食生活指導に有意義な示唆をうることを目的とする。

2. 上述の目的を達成するため、明治期から現今にいたる間に、一般国民を対象として編集・公刊された4種の家庭百科事典をとりあげ、調査の対象とした。すなわち、これらの事典が採録した食品・調理品・調理法・調味料香辛料・嗜好食品・食事形式・食器類・調理器具・厨房施設など、食生活にかかわる事項を、ひとつひとつカードにとり、約7,000枚のカードを作製することができた。そして、各カードには、原事典における説明記事の大要、図版・写真等の有無、ヴォリューム（説明に費した行数）等を記入した。このようなカードをもとに、さまざまな統計的操作をほどこすことによって、食生活に関する教養の量的変動を探り、説明記事の内容分析により質的变化の究明に努めたのである。

3. 今回は、上記のうち、食生活に使用された食品の種類、各食品の加工法・調理法また栄養、衛生面等の分野における量的・質的変動について、若干の成果がえられたので、これについて発表を行ないたい。

E-15 わが国における一般国民の食生活に関する教養の展開過程 —第1報—

和洋女大 石川松太郎
○市毛 弘子

1. 明治初年より今日にいたる近代社会の成立・発展にともなって惹起した食生活の構造変化はきわめて顕著なものであった。顕著なこの構造変化に対応して、一般国民の食生活にかかわる教養が、どのような量的ならびに質的変動を遂げたかを調査し、今後の家庭教育、と